



High performance. Delivered.

**「平成29年度輸出戦略実行事業」
輸出拡大に向けた物流会社・商社の課題に関する調査報告書**

2018年3月
アクセンチュア株式会社

物流技術の普及を図る上で、投資対効果が見込めるだけの商流が確保できていないことが課題であり、初期投資の高さ、実証後の実用化時のコスト、中小企業の技術中心とした認知度不足等も課題として挙げられている。

技術普及に向けた課題・原因

対応策（案）

安定商流の不足

- 新たな物流技術を導入することによる投資対効果が見込めるだけの商流がない、または不安定
《参考》事務局調査結果としてp.4にとりまとめ

- 輸出用商品の生産拡大や現地販路の拡大

主に
品目部会
にて検討

物流技術・設備への投資やコストの負担が困難

- 優れた技術であると評価される一方で、投資回収のリスクが高いと判断され、高額な装置（スーパークーリングシステム等）や設備の導入が進まない
- 技術の性質によってはコンテナ船に搭載する際に、船会社から補償状[※]の提出または技術者の同乗を求められるケースがある
- 輸送容器が現地輸入時に貨物扱いされることによる関税等の費用負担が発生するケースがある

- 初期投資が必要な設備・装置に対する支援
- かかり増し経費への支援
- 現地オペレーションにかかる費用の分析、対応
- 物流コストの低減に関して、先進的に取り組んでいる工業製品の事例の調査

実証後に実用に至らない

- 実証自体は成功するものの、現地での商流がないため、実用化されないケースが多い
- テスト輸送価格で物流商品を提供しても、正規運賃の定期便にはならず、利益が上がらない

- 実証を行う基準を設け、実証後に実用化に繋がりやすい現地商流の開拓の可能性が高い実証への注力や販路確保事業と組み合わせた実証の推進

その他

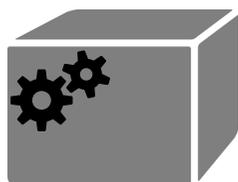
物流技術の認知度が不足している

- 口コミ・地道な営業活動を行っているが、特に中小企業では人的資源が限られており、普及に向けた効果的なプロモーション手法が必要である

- 卸売市場や輸出組合での物流技術の勉強会等の輸出に関わる事業者が集まる場での技術紹介機会の設置
- 物流の手引き・物流技術の紹介セミナー等での周知

[※]船会社に対して受取貨物の過不足・ダメージについてクレームをしないことを約した補償書

優れた技術を有しながらも、商流確保ができないことを理由に採用が見送られる技術が存在。事業者はニーズに合わせた商品改良やターゲット市場の変更を行い対応している。



リターンブル
コンテナ内設置型
鮮度保持装置



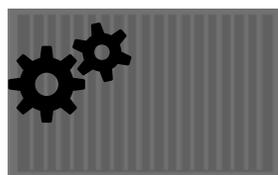
荷主(商社等)

技術は優れているが、
定期便を組むほどではないし、
初期投資がかかるものの
使用は避けたい

簡易製品
の開発



簡易なワンウェイ
廉価製品の開発



自動車製造技術から派生した
輸出用鮮度保持コンテナ



船舶会社・
物流会社

技術は優れているが、
高額なコンテナや装置の購入は
需要が見えないために導入しづらい。
リース等の仕組みがあれば
使用する可能性はある

ターゲット市場の
変更



国内倉庫向け商品の
開発・販売への注力



人工造雪技術から派生した
鮮魚保存用製氷装置



インド・スリランカ市場
への注力

小ロット混載(LCL)における物流コストに関する課題

$$\text{物流コスト} = \text{国内運賃 (手数料・マージン等含む)} + \text{海上運賃 (手数料・マージン等含む)} \div \text{小ロット混載(LCL)の積載率}$$

※概念的な数式

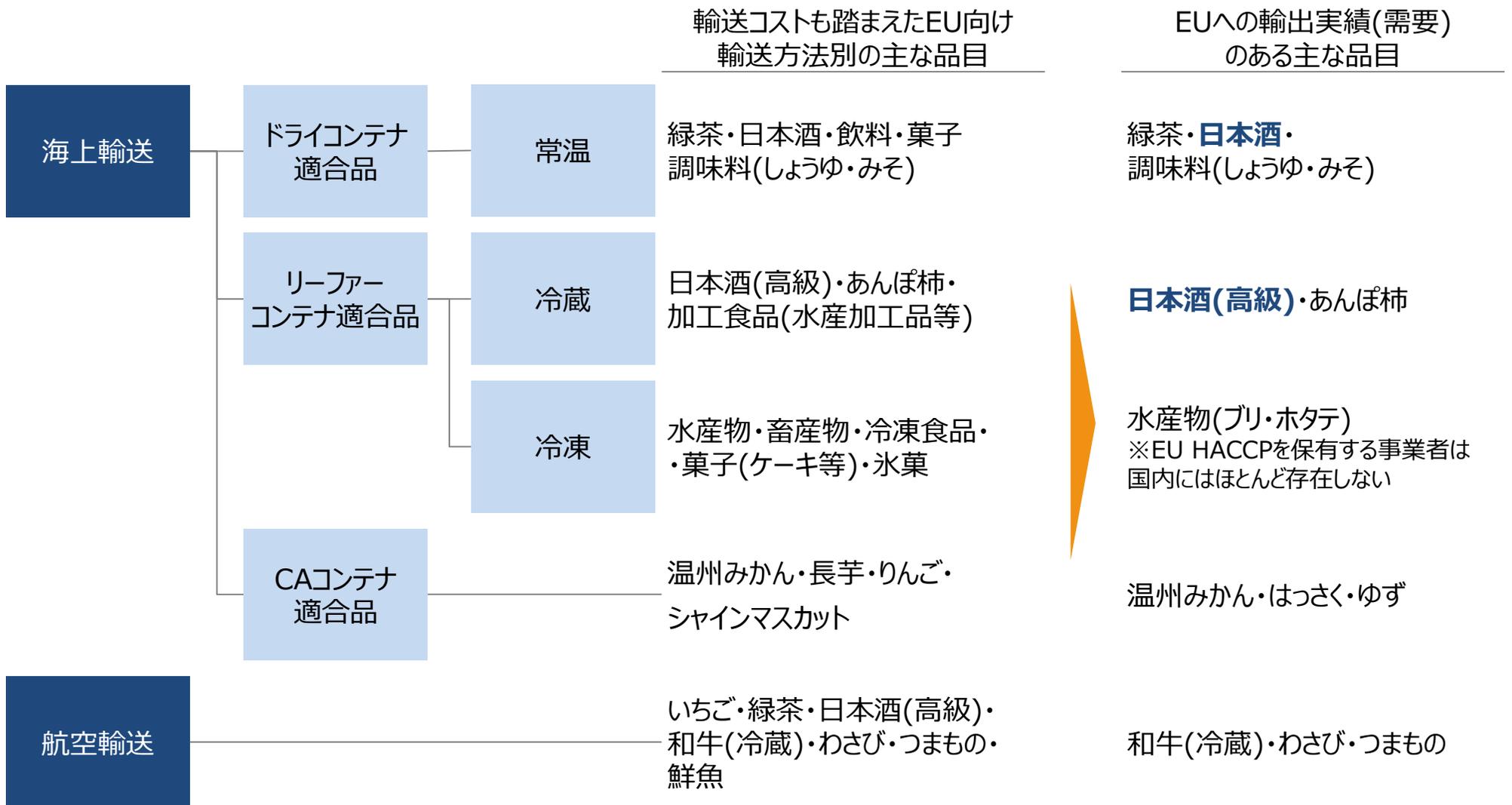
概況	課題	物流コスト	国内運賃 (手数料・マージン等含む)	海上運賃 (手数料・マージン等含む)	小ロット混載(LCL) の積載率
<ul style="list-style-type: none"> 輸出の拡大に向け、物流費低減が求められる一方で、物流会社として取組可能な物流費低減の余地は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮品輸出に関わる物流サービスの継続及び、海外市場での競争力向上に向け、コストの低減が必要 		<ul style="list-style-type: none"> 物流コスト全体に占める割合が高い 国内物流の仕組に関し、運賃削減の余地がある 	<ul style="list-style-type: none"> 物流コスト全体に占める割合は低い 物流会社各社で取組を実施済みで運賃削減の余地は少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 国内物流に比べ、積載率が低く、運賃の損益分岐点を低め(割高)に設定せざるを得ない
			<ul style="list-style-type: none"> 輸出用の一貫した生産・流通体制が構築されておらず、多数の流通業者が関与するため、マージン等の間接コストが高い 	<ul style="list-style-type: none"> 既に各社による取組によってコスト削減は取組済みで、これ以上の海上運賃の低減は困難 	<ul style="list-style-type: none"> 都市部を中心に、輸出处向け冷蔵・冷凍倉庫の不足による輸出品の集積・大ロット化が困難 海外への太い商流が不足しており、安定的に物量を確保することが困難 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 物量が集まらず、物流会社での損失が発生するケースも存在
			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>LCL(小ロット混載)に限らず寄せられたご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 運転手不足により国内輸送時のトラック運賃が上昇 ▶ 港湾では取扱貨物量が処理能力を超過していること等によって生じる港頭での長時間待機や、LCL(小ロット混載)貨物のコンテナ積み替え作業により輸送効率が低下 </div>		

輸出拡大に向けた課題・提言

対応策（案）

	輸出拡大に向けた課題・提言	対応策（案）
生産	<ul style="list-style-type: none"> • 輸出用産地の不足 • 輸出用選果・梱包・輸送設備等の不足 	<ul style="list-style-type: none"> • 輸出用産地の整備 • 産地における輸出用の選果・包装の取組推進 • オーストラリア等をはじめとする輸出用産地の成功事例の収集・研究
商流	<ul style="list-style-type: none"> • 産地間連携の不足 • 現地販路の不足 	<ul style="list-style-type: none"> • 産地間連携を推進する取組の加速 • 先進鮮度保持技術を活用した倉庫等を活用し、地域別の集積地を設け、一括輸出を行うモデルの実証・構築 • 現地での販路確保に向けた調査・実証の推進 • B級品等の新たな商材の輸出
輸出環境	<ul style="list-style-type: none"> • 複雑な輸出手続 	<ul style="list-style-type: none"> • NACCS等を活用した手順の簡略化（推進中）

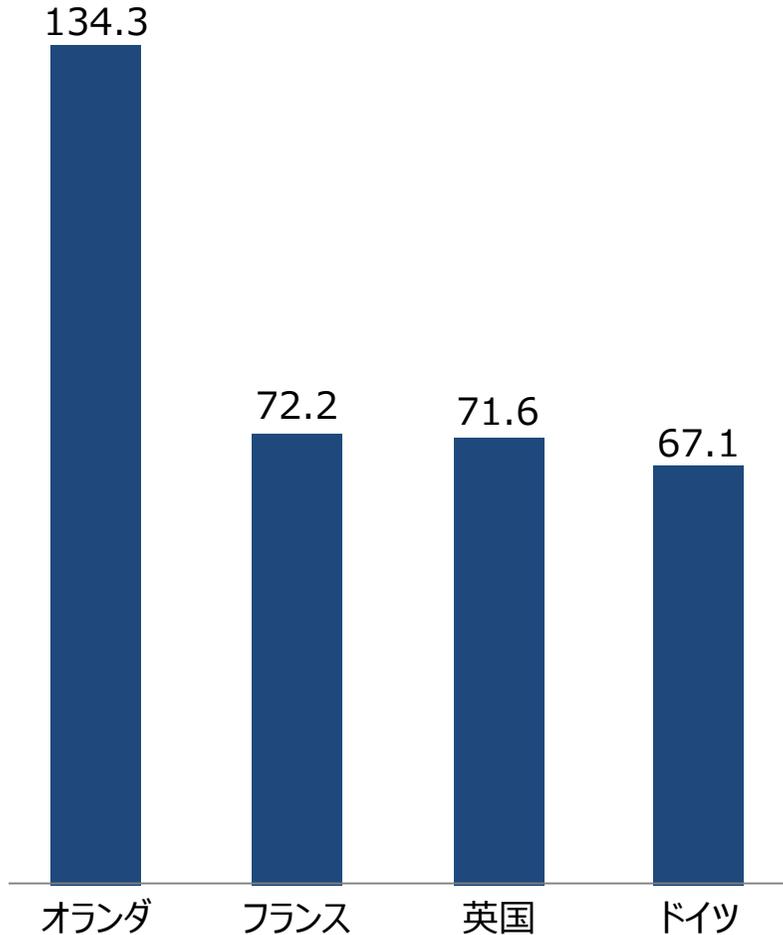
輸送手法・輸出品目の整理(EU向け輸出)



《参考》EU向け輸出の概況

EU向け輸出額(2017年1-12月)

単位：億円



主な輸出品目

主な輸出青果物※

国	主な輸出品目	主な輸出青果物※
オランダ	<ul style="list-style-type: none"> アルコール飲料 (23億円) ホタテ貝 (15億円) 魚油 	<ul style="list-style-type: none"> その他の乾燥野菜 (390万円) 芋類 (150万円)
フランス	<ul style="list-style-type: none"> アルコール飲料 (32億円) 醤油 (4億円) 緑茶 (3億円) 	<ul style="list-style-type: none"> その他の果物 (122万円) その他の生鮮野菜 (31万円) その他の乾燥野菜 (47万円)
英国	<ul style="list-style-type: none"> アルコール飲料 (16億円) ソース混合調味料 (12億円) 醤油 (5億円) 	<ul style="list-style-type: none"> その他の生鮮野菜 (157万円) 根菜類 (454万円) その他の乾燥野菜 (377万円) 長芋 (113万円)
ドイツ	<ul style="list-style-type: none"> 緑茶 (13億円) ラリリン(油脂) (11億円) ソース混合調味料 (3億円) 	<ul style="list-style-type: none"> その他の生鮮野菜 (115万円) その他の果物 (74万円) 芋類 (45万円)

※EUの貿易統計では青果物は「その他」に分類される品目(つまもの・かんきつ類)が多いとされており、小品目別の輸出額の把握が困難

《参考》物流会社・商社における輸出の状況

物流会社

	主な輸出先国	主な輸出品	輸送手法	利用技術	主な課題
物流会社A	<ul style="list-style-type: none"> 香港 台湾 アメリカ 	<ul style="list-style-type: none"> りんご・なし すしダレ ラーメンスープ・ラーメン 	<ul style="list-style-type: none"> 海上 航空 	<ul style="list-style-type: none"> 鮮度保持コンテナ 鮮度保持ボックス 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な物流技術・サービスで輸送実証を行うが、商流がないために実装されない 初期投資のかかる物流サービス・商品の販売は困難
物流会社B	<ul style="list-style-type: none"> 香港 台湾 シンガポール ベトナム 	<ul style="list-style-type: none"> イチゴ(沖縄) メロン(北海道) キウイ(九州) きゅうり トマト 	<ul style="list-style-type: none"> 海上 航空 	<ul style="list-style-type: none"> - 	<ul style="list-style-type: none"> 現地の販売価格が日本の2.5～3倍となり、一部の富裕層向けの商品が中心となるため、安定した商流の拡大が困難 現地で商品の状態に合わせて販売先を差配する商社が必要
物流会社C	<ul style="list-style-type: none"> 香港 シンガポール マレーシア タイ 台湾 	<ul style="list-style-type: none"> 水産物(ホタテ・鮮魚) 	<ul style="list-style-type: none"> 海上 航空 	<ul style="list-style-type: none"> 鮮度保持コンテナ 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出用包装がされておらず、鮮度保持や輸出後の運搬が困難 食品は低単価で店頭価格への価格転嫁に限界があり、物流費を吸収しづらいため、運賃の値上がりが困難で薄利である
物流会社D	<ul style="list-style-type: none"> 香港 台湾 アメリカ 	<ul style="list-style-type: none"> りんご・なし すしダレ ラーメンスープ・ラーメン 	<ul style="list-style-type: none"> 海上 航空 	<ul style="list-style-type: none"> 鮮度維持コンテナ 	<ul style="list-style-type: none"> 物量が少ないため、運賃が割高となっているが、物流会社として十分な利益は確保できていない
物流会社E	<ul style="list-style-type: none"> 非公開 	<ul style="list-style-type: none"> 青果物 水産物 	<ul style="list-style-type: none"> 海上 航空 	<ul style="list-style-type: none"> 非公開 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出手続書類を各地で取得する必要があり、鮮魚等の短時間での輸送が求められる商品の輸出が困難

《参考》物流会社・商社における輸出の状況

		主な輸出先国	主な輸出品	輸送手法	利用技術	主な課題
商社	輸出組合A	<ul style="list-style-type: none"> 香港 タイ 	<ul style="list-style-type: none"> ホタテ 水産加工品 (切身・煮付) イチゴ 	<ul style="list-style-type: none"> 航空 	<ul style="list-style-type: none"> 非公開 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な団体が輸出に取り組むことで商流・商品が分散してしまい、物流費等のコスト低減が困難 航空機の小型化で貨物積載量が減少
	輸出組合B	<ul style="list-style-type: none"> マレーシア シンガポール マカオ タイ カナダ 	<ul style="list-style-type: none"> 水産物(ブリ・マグロ等) 青果物 (桃・水菜等) 	<ul style="list-style-type: none"> 航空 	<ul style="list-style-type: none"> 非公開 	<ul style="list-style-type: none"> HACCP取得を必須条件としているバイヤーがいる中、主に中小企業でHACCP取得が遅延
	商社A	<ul style="list-style-type: none"> 香港 台湾 	<ul style="list-style-type: none"> かんしょ かぼちゃ キャベツ・白菜 たまねぎ じゃがいも 	<ul style="list-style-type: none"> 航空 海上 		<ul style="list-style-type: none"> パレットと荷物を一つずつ手作業で積むため、コンテナへの積載に3時間以上かかる。産地でパレタイズすべきではないか
	商社B	<ul style="list-style-type: none"> 輸出計画 (輸入のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> - 	<ul style="list-style-type: none"> - 	<ul style="list-style-type: none"> - 	<ul style="list-style-type: none"> -